

長野県立信州医療センター・外来診療担当予定表(1月)

○午前の受付時間は8時30分～11時30分(自動受付機は7時30分～)

○午後の受付時間は各診療科、曜日により異なりますので、外来担当表にてご確認ください。(平成29年12月29日現在)

| 診療科 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | |
|---------------|-----------|------------------------------------|--|---|-------------------------|------------------------------------|-------|
| 総合診療科 | | 中村 真一郎 宮島 正行/植原 啓之 | 保坂 亮介 小泉 正幸/関 年雅 | 原田 輝和 濱 峰幸(17・31日) 原田 美貴子(10・24日) | 赤松 泰次 木畑 稔 | 鈴木 一史 岩波 直弥 | |
| 内科 | 呼吸器感染症 | 午前 | | 山崎 善隆 岩波 直弥 | 岩波 直弥 | 山崎 善隆 | |
| | | 午後 | 山崎 善隆(14時～) | 濱 峰幸(14時～) | 山崎 善隆(14時～) | | |
| | 消化器内科 | 午前 | 下平 和久 | 赤松 泰次 | 中村 真一郎 | 下平 和久 | 宮島 正行 |
| | | 午後 | | | | 植原 啓之 | |
| | 循環器 | 関 年雅 | 丸山 隆久 原田 美貴子 | 白井 達也 (長野赤十字病院医師) | 関 年雅 | 丸山 隆久 | |
| | 血液 | 齊藤 博 | | 小泉 正幸 | 妹尾 紀子 | 小泉 正幸 | |
| | 腎臓 | | 市川 透(16・30日) 原田 真(9・23日) (長野赤十字病院医師) | | | | |
| | 糖尿病/生活習慣病 | 小林 永幸 | | 長澤 武志(終日) | 小林 永幸 加藤 晃佑(終日) | 小林 永幸 | |
| | 肝臓 | | | | | 木村 岳史(12・26日) | |
| | 漢方 | | | 布施 修(終日) (10・17・24日) | | | |
| | ペースメーカー外来 | | | | 関 年雅 (13時30分～) | | |
| | ピロリ菌専門外来 | 赤松 泰次 (13時30分～) | | | | | |
| | 嚥下機能評価外来 | 山崎 善隆(14時～) | 山崎 善隆(午前) | 山崎 善隆(14時～) | 山崎 善隆(午前) | | |
| 貧血外来 | | 小泉 正幸(14時～) | | | | | |
| 海外渡航者外来 | | 交代制(13時30分～) (15・29日) | | | | | |
| 外科 | 1 診 | 古澤 徳彦 | 久保 直樹 | 交代制 | 久保 直樹 | 古澤 徳彦 | |
| | 2 診 | 寺田 克 | 今井 紳一郎 | | 寺田 克 | 今井 紳一郎 | |
| 血管外科 | | 上沢 修 | | | 上沢 修 | | |
| 呼吸器外科 | | | 坂口 幸治 | | | 坂口 幸治 | |
| 禁煙外来 | | | | 上沢 修 | | | |
| 形成外科(午後のみ) | | 高清水 一慶 (14時～16時) | | 矢野 志春 (14時～16時) | | | |
| 整形外科 | 初診・予約外 | 山岸 佑輔 西村 匡博 | 渡邊 憲弥 | 吉田 和薫 (信大医師) | 三井 勝博(紹介・下股) 山岸 佑輔 | 上原 将志(脊椎) 西村 匡博 三井 勝博(5・19日) | |
| | 予約 | 三井 勝博 | 西村 匡博 | 渡邊 憲弥 | 三井 勝博 山岸 佑輔 | 渡邊 憲弥(12・26日) | |
| 脳神経外科 | | 銭坂 英生 (15・29日) | | | 伊東 清志 | | |
| 皮膚科 | | | | 白井 拓史 | | 小口 美抄枝 | |
| 小児科 | 午前 | 鶴田 悟郎 | 南 勇樹 | 南 勇樹/鶴田 悟郎 (交代制) | 鶴田 悟郎 | 南 勇樹 | |
| | 午後(予約) | 予防接種 (14時～) | | | 小児循環器外来 (14時～) | 予防接種 (14時～) | |
| | | 慢性外来 (16時～) | 乳児健診 (14時～) | 慢性外来 (14時～) | 発達・心理外来 (15時～) | 慢性外来 (16時～) | |
| | | 慢性外来 (15時～) | | 慢性外来 (15時～) | | | |
| 産科 | | 交代制 | 交代制 | 交代制 | | 交代制 | |
| 婦人科 | | 飯高 雅夫 | 飯高 雅夫 | 飯高 雅夫 | | 飯高 雅夫 | |
| | | 交代制 | 交代制 | 交代制 | 交代制(予約制) | 交代制 | |
| 泌尿器科 | 午前 | 上野 学 (22日) | 上野 陽子 | 宮下 大輔 | | | |
| | 午後 | | 上野 陽子 (13時30分～) | 上野 陽子 (14時～) | | | |
| 眼科 | 午前 | 山田 哲也 山口 晋太郎 | 山田 哲也 山口 晋太郎 | 山田 哲也 山口 晋太郎 | | 山田 哲也 山口 晋太郎 | |
| | 午後 | 山田 哲也 山口 晋太郎 (予約のみ)(13時30分～) | 手術 | 山田 哲也 山口 晋太郎 (検査・予約)(13時30分～) | 手術 | 山田 哲也 山口 晋太郎 (予約のみ)(13時30分～) | |
| 耳鼻咽喉科 | 午前 | 清水 勝利 | 清水 勝利 (新患紹介来院11時まで) | 清水 勝利 | 清水 勝利 (新患紹介来院11時まで) | 齋藤 有希子 | |
| | 午後 | | | 清水 勝利 (14時30分～16時30分) | | | |
| 麻酔科(ペインクリニック) | | 清水 俊行 | | | 清水 俊行 | 清水 俊行 | |
| 漢方東洋医学外来(予約制) | | | 水嶋 丈雄 | | | | |
| 精神科 | | | | | 長峯 清英 (11・25日)(14時～) | | |

(診療情報提供書の送付先)長野県立信州医療センター・地域医療福祉連携室 FAX 026-246-5530・TEL 026-246-6577(直) 外来診療担当表は、内容が変更になる可能性がありますので、当院ホームページ等でご確認ください。

私たちは患者中心のチーム医療を実践し、信頼される病院を目指します。

長野県立信州医療センターだより

かがやき 第6号

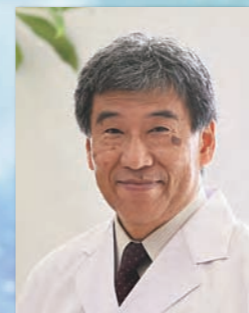
第6号 平成30年1月発行
 発行人:長野県立信州医療センター
 [院長 寺田 克]
 編集人:長野県立信州医療センター
 広報委員会
 [委員長 赤松 泰次]
 〒382-0091 須崎市大字須坂1332
 TEL(026)245-1650
 FAX(026)248-3240



新年のご挨拶

「地域包括ケアシステム」構築の中での当院の役割

長野県立信州医療センター 院長 寺田 克



新年あけましておめでとうございます。須高地区の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また旧年中は、東棟の竣工・稼働、既存棟の改修・移設、病院名の変更など、地域のみなさまに格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。平成30年の年頭にあたり、皆様にご挨拶申し上げます。

近年の我が国の医療を取り巻く環境は、急速な少子高齢化が進むなかで、団塊の世代の方々が75才以上を迎える平成37年(2025年)を前に、社会保障制度の行き詰まりが懸念されています。このため国は「社会保障と税の一体改革」として、医療・介護サービス強化のため、「地域包括ケアシステム」の構築やそれを実現するための地域医療提供体制と、医療需要の検証を通じての「地域医療構想」における病院・病床の機能分化を推進しています。その根本的な考えは、医療の提供体制が一つの病院で完了する「病院完結型」から、急性期から回復期さらに在宅療養に至るまで、地域全体で切れ目ない医療を提供する「地域完結型」医療への転換であり、同時に人口の高齢化に伴う疾病構造の変化を見据えた医療・介護・福祉サービスの継続的な提供をもとにした「治す医療」から「治し支える医療」への転換を図るというものです。

当院は一般急性期医療を中心に提供していますが、前述の政策実行の観点から、在宅や施設入居中の方の急病の際の一般病床における受け入れはもちろんのこと、地域包括ケア病床においては、療養継続のための支援入院も行っています。須高地区では須高医師会と在宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、行政の連携のもとで、情報共有システムの「在宅医療安心ネット」が構築されていますが、当院はこのネットワークの中で、後方支援病院としての機能も果たしています。

住み慣れた地域での安心した生活の継続とそれを支える環境づくりの一旦を担うため、当院は地域の皆様の要望や地域との連携を大切に、急性期・回復期医療から疾病予防・健康増進に向けた取り組みを推進しています。本年も良質な医療の持続的・安定的な提供を目指してまいりますので、当院へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして幸多き年となりますよう心より祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

私たちは患者中心のチーム医療を実践し、信頼される病院を目指します。

平成29年10月に既存棟改修工事が完了し、感染症センターの開設、遺伝子検査室及び本部研修センターの移転拡充を行い、診療・教育・研究機能の強化を行いました。今回は、各部門からのお知らせと機能等をご紹介します。

感染症センターからのお知らせ

インフルエンザの予防と対策

感染症センター副センター長 堀 勝幸

明けましておめでとうございます。寒い日が続きますが体調にお変わりはないでしょうか。インフルエンザへの備えが必要な季節になりました。インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することで起こる病気です。発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的速くに現れるのが特徴です。主な感染経路は、咳やくしゃみの時に発生する小さな水滴(飛沫)による飛沫感染ですので、この飛沫を浴びないようにすれば感染の機会は大きく減少します。普段から咳エチケットを心がけ、咳やくしゃみを人に向けて発しないこと。咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。とっさの咳やくしゃみには、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆うこと。手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時は、すぐに手を洗うことなどを心掛けてください。特に感染者はマスクの着用が重要です。また、睡眠と水分を十分にとり、無理をして学校や職場に行かないよう心掛けてください。

インフルエンザに対する治療薬は、内服薬と吸入薬があります。いずれも医師の指示通り服用することが大切です。抗生剤はウイルスには効果がありません。インフルエンザにかかったら、抗インフルエンザ薬の種類や服用にかかわらず、異常行動が報告されています。小児・未成年者がインフルエンザと診断され治療が開始されたなら、保護者の方は少なくとも2日間は、患児を一人にしないように注意をお願いします。

インフルエンザは流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が広がります。「かかったかな」と思ったら、早めに医療機関を受診することが大切です。

遺伝子検査科について

長野県内における造血器腫瘍診断の確立

遺伝子検査科部長 浅野 直子

【遺伝子と遺伝子検査】

人体は「細胞」という基本単位で形成されていますが、その細胞の中心一核の中の染色体上にDNA(デオキシリボ核酸)という物質があります。「遺伝子」はそのDNAに刻まれた生物の設計情報です。人体には約26000個の遺伝子があると推定されていますが、どの細胞で、どの遺伝子を、いつ発現させるかによって、各細胞の運命は決定されています。遺伝子の指令に基づき適切なタンパク質が発現することで、私たちの生命は維持されています。遺伝子検査とはその遺伝子の配列に異常があるかどうか(変異解析・DNAシーケンシング)や染色体異常の有無(FISH法)を調べるもので、当院では腫瘍関連遺伝子を中心に検査を行っています。



【造血器腫瘍診断と遺伝子検査】

遺伝子異常と診断・治療が深く関わる疾患の代表的なものとして造血器腫瘍が挙げられます。造血器腫瘍とは血液細胞の悪性腫瘍であり、代表的な疾患は白血病や悪性リンパ腫になります。これらの診断にはWHO分類に従って疾患単位に分別することが必要となりますが、現在約200種の疾患単位が掲載されており、正確に診断することが難しい分野の一つです。また、従来からの病理診断(顕微鏡で組織像を観察する方法)に加え、遺伝子診断が必須となる疾患単位が増えたことから、診断の分野における遺伝子検査の重要性が示唆されています。

このような状況の中、当院は2014年より遺伝子検査科を設立し、診断および治療に必要な遺伝子異常を調べることで、より正確な診断と適した治療を選択していただけるよう心掛けてきました。現在、北信地方では長野赤十字病院、中信地方においては信州大学病院やNHOまつもと医療センターから標本をお送りいただき、難解例を中心に診断しております。長野県内の臨床医の先生方、病理医の先生方、血液疾患を疑う方がいらっしゃいましたら、是非ご連絡いただければと存じます。

長野県立病院機構本部研修センターの紹介

研修センターがリニューアルオープンしました

研修センター長 齊藤 博

本部研修センターは、平成29年10月に信州医療センター南棟3階に移転拡充を行いました。同センターは、機構職員の新規採用者研修をはじめ、入職3年目5年目10年目などの節目に、スキルアップ研修や管理職研修を企画し、職員のキャリア形成を図っています。いずれの研修にもアンケート調査を行い、次回への改善につなげています。シミュレーション研修では、医学教育学における国内外の専門家を幅広く招聘し、病院機構の職員のみならず、県内外の医療関係者を対象とした医学教育に関する講習会を開催しています。

また、ここは、県の「信州医師確保総合支援センター」分室もあり、信州医療センターのほか、県内他病院の初期研修医、後期研修医に対して、医師の育成や確保に向けた役割も果たしています。

センターの人員体制は、医師、看護師、薬剤師、看護師、事務員の7人で構成され、施設・設備は、スキルラボ(実技トレーニング室)、コントロール室、シミュレーター室を有しています。

さらに、ハワイ大学医学部SimTikiシミュレーションセンターへの機構職員の派遣研修や、当該受講者を中心としたセミナーの開催を通じ、指導者の育成やスキルアップを図るとともに、当該指導者を中心に各病院においてシミュレーション研修を行っています。

これからも、リニューアルオープンした研修センターの機能を十分に発揮し、県内医療水準の向上に寄与し、開かれた研修施設を目指してまいります。



リニューアルオープン企画の様様

2017年11月23日 当直医の「ナイトオンコール」シミュレーション実習
ハワイ大学 SimTiki シミュレーションセンターより、ベンジャミン・バーグ先生とジャネット・リー先生を招き、県内の初期研修医・医学生を対象に実施しました。



健康管理センターからのお知らせ

●新規オプション検査

下部消化管内視鏡検査「大腸ドック」のご案内

がんで亡くなる方は年々増加傾向です。部位別にみると大腸がんは、男性では3位、女性では1位です。早期発見でほぼ完治が期待できます。40歳以上で大腸がんのご家族がいる方などは、検査を受けることをお勧めします。お腹の張らない二酸化炭素を使用し、ご希望により静脈麻酔も選択できます。どうぞお気軽にお問い合わせください。

料金 20,000円(税込)

大腸ドック単独の場合

料金 23,000円(税込)

※健康診断とは別日での実施となります。

人間ドックご予約受付中

4月、5月はご予約が取りやすく、ぜひこの期間にご利用をお勧めします。



ご予約・お問合せ 健康管理センター
TEL.026-246-5544 (平日13~17時)

ロコモティブシンドロームの予防指導について

リハビリテーション技術科長 白澤 輝恭

「ロコモ」って? 「メタボ」なら知っているけど。。

ロコモは正式名称をロコモティブシンドローム(日本語では運動器症候群)と言い、「筋肉」「骨」「関節」など体を動かす運動器のいずれかに障害を生じ、「立つ」「歩く」といった日常生活の自立度が低下したことを言います。

日本人の平均寿命は世界トップレベル。しかし、介護が必要な状態や、寝たきりにならず自立して生活できる「健康寿命」は、女性74.2歳、男性71.1歳と平均寿命とは12~9歳の差があります。いつまでも自分の脚で歩き続け、自立した生活を送る為に、ロコモを予防し健康寿命を延ばすことがロコモ検診の目的です。

現在、当院の2日ドックを受診された方に、3つのロコモ度テストを行い、その結果をもとに理学療法士らによる生活・運動指導を行っています。今後はより多くの皆さまにも受けて頂けるよう準備をしています。

ロコモを予防し、いつまでも足腰元気で、自立し充実した生活を送って頂くためにご利用いただければと思います。



ストレッチスペース



訪問看護の活動について

訪問看護をご存知ですか？

訪問看護室看護師長 田中 久美

「家に看護師さんが来てくれるなんて知らなかった」という言葉を耳にすることがあります。訪問看護師は何をする人なのか、どんなサービスなのか、まだまだ知られていないのが現状です。

医療機器を使っていたり、がんあるいはその他の終末期、様々な病気や障害をお持ちの方、一人暮らしの高齢の方や認知症の方など“家では暮らせない”病院や施設にお世話になるしかないと思いませんか？

“家で暮らしたいときに暮らせる”そして、“自宅で最期まで過ごすことができる”そのための看護を提供します。

家族の笑顔や見慣れた景色、聞き慣れた音に囲まれた“いつもの場所”で過ごすことは、大きな安心感をもたらし、生きる力になります。

24時間365日、訪問看護師は安心して療養生活を送ることができるよう、ご本人ご家族に寄り添い、在宅ケアに関係する医師やケアマネジャーなど、多くの職種と協力し支えます。

住み慣れた自宅や地域の中で過ごしたいという希望を支えるパートナーとして、訪問看護をご活用ください。



在宅診療部訪問看護室スタッフ

訪問リハビリテーション

リハビリテーション技術科 理学療法士
荻野 光広

日本人の平均寿命が、男性80.75歳、女性86.99歳と過去最高を更新したことを2017年3月1日に厚生労働省が公表しました。長野県は男女ともに1位(男性80.88歳女性87.18歳)となっており、非常に誇らしく思います。

一方で、健康寿命※1のランキングでは、長野県は男性18位(71.45歳)女性16位(74.73歳)と大きく順位を落としています。これは、日常生活に支障を抱えながら、長い期間生活をしている方が多いことを示しています。

そこで当院訪問リハビリテーションでは、怪我や障害を有していても、ご自宅でその方らしく日常生活を送ることができるよう、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などが、ご自宅を訪問し、心身機能の維持改善や家屋環境整備の提案、親族(キーパーソン)へのサポートを行います。また、その地域特有の環境を理解し、社会との交流を円滑に行えるようにサポートをいたします。

※1 健康寿命とは、健康上の問題がない状態で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。

お薬たまっていませんか？



～お薬バッグについて～

主任薬剤師 三澤 貴美

「お薬バッグ」とは自宅に残っている残薬(あまっている薬)を活用するための取り組みです。飲み切らずに残してしまったり、飲み忘れてたまっている薬が自宅に残っている・・・そんな薬があれば、その薬をかかりつけ薬局へご持参ください！

薬剤師が持参した残薬の量や使用期限をチェックし、適正な薬の量となるように調整のお手伝いをいたします。また、お薬が残ってしまった原因を一緒に考えアドバイスいたします。

患者さまの薬の飲み間違いによる副作用の発生を防ぐために、また医療費の負担を軽減するために、全国で注目を集める運動となっています。

バッグは無料で提供させていただきます、かかりつけ薬局へご相談ください。

「須高地区手をつなごう会」を開催しました

地域医療福祉連携室室長補佐 佐藤 香代子

2016年に診療報酬が改定され、重点課題に挙げられたのは「地域包括ケアシステムの推進」と「医療機能の分化・強化」「連携に関する視点」の見直しでした。

地域包括ケアシステムの推進により、医療・介護・福祉の連携の重要性がクローズアップされました。地域の医療・介護・福祉に携わる関係職員が意見交換、情報共有の場として、当院で「地域保健医療福祉懇談会」を14年間開催してまいりましたが、社会の変化に合わせた見直しが必要と考え、手をつなぐ＝連携の強化を目的に、信州医療センターの連携室が中心となり、須高医師会・歯科医師会・薬剤師会との共催で「須高地区手をつなごう会」を立ち上げました。

第2回目となる今年は、当院の地域包括ケア病棟での取り組みを看護師・理学療法士・薬剤師・医療福祉相談員がそれぞれの立場から発表し、お集まりいただいた多職種の方々と、地域包括ケア病棟の役割や特色について共に理解を深めることができました。

来年の診療報酬改定でも「連携」がキーワードの一つとなっています。地域の皆さまにより良い医療・介護・福祉の提供を目指し、この会を有意義な集いとして継続させていきたいと思っております。



摂食嚥下障害看護認定看護師から

摂食嚥下障害看護認定看護師 山岸 里美

「食べる」「話す」「息をする」などの機能は、「歩く」「つかむ」などの身体機能の低下のように、加齢とともに全身の筋肉量と筋力が低下することや疾患により障害を受けます。低栄養や寝たきりといった状態が長期間続くと、口から食べることがとても大変な状況につながりやすくなります。患者さんと関わらせて頂く時に、私は意識していることがあります。①「いつでも食べられるように」、②「いつまでも食べ続けることができるように」という視点です。具体的には日常生活の状況、食事(栄養)の様子、口腔内の清潔や口の動きの状況を気にしながらケアを行います。

患者さん・家族にとって、口から食べることを考え、食べられなくなった時にどのようにしたいのかを含め、患者さん・家族の思いに寄り添いながら包括的ケアをしていきたいと思っておりますので、気軽にご相談ください。よろしくお願い致します。

今回は、一般外来で「糖尿病看護認定看護師」として活動されている千脇洋子さんをご紹介します。

親子見学会を開催しました!

12月3日(日)、昨年度に引き続き、須坂中央地域づくり推進委員会・須坂市中央公民館の主催により親子見学会を開催し、9家族22名の親子にご参加いただきました。

顕微鏡でがん細胞・血液細胞の観察(検査科)、CT画像での分析(放射線技術科)、心臓マッサージや内視鏡の練習(研修センター)などを実際に体験され、親子共に良い経験になったという感想を多くいただきました。

地域の皆さまに当院のことをよく知っていただくとともに、お子様達が医師や看護師、検査技師などの仕事や役割を理解し興味を持っていただけるように今後も取り組んでまいります。



CT装置で身近な物を撮影し、みんなで画像を分析してみました。



内視鏡トレーニング装置で操作体験をしました。

園芸・環境整備ボランティアの方々のご紹介

当院の植栽・花壇は、駐車場の外周や正面玄関ロータリー付近の花壇の手入れや草刈り、垣根の剪定を下さっているボランティアの方々によって、病院のご利用者が気持ちよく来院いただける環境が保たれています。

なお昨年度、「美花の会」が結成され、ボランティアの方々や病院職員有志が協同で花苗の植付などの活動を行っています。また、立町区の方々にも、草刈りや垣根の剪定などの環境整備にご協力いただいております。

今後も引き続き、ボランティアの方々や地域の方々や協力し、ご来院される方の心を癒す空間を目指してまいります。



立町区の方々へ植栽の手入れなど環境整備をしていただきました。



美花の会の方々や職員有志の協同作業で花壇の植付が出来ました。